

不登校の子どもたちの進路について

～この資料は、不登校の子どもたちの親の会がこれまでに開いてきた毎年の進路学習会の資料や先生方のお話をもとに作成しました。みなさんの「進路」を考える参考にさせていただければ幸いです。～

1、中学校にあんまり行ってなくても高校に行けますか？



行けますよ！いろいろな進路がありますから、自分に合った進路を探して、チャレンジしてみましょう。まだ動けないな、動きたくないな、しんどいな、そういう場合でも自分の進路を自分で考えて決めることが大切です。

2、「高校」にはどんな種類があるのだろう～東京都の場合。



(1) だれが作った学校か。

- ① 都立高校 (都内に全部で197校ありますよ)
- ② 私立高校



(2) どういう通い方の学校か。

① 全日制

朝から午後まで日中に授業があります。中学校で長く休んでいた人も入学して、通学しています。

② 定時制

a 夜間定時制 少人数授業で、通う人の年齢も様々です。昼間、アルバイトをしている人もいます。4年制。

b 昼夜間定時制(3部制) 午前部・午後部・夜間部があり、チャレンジスクールには不登校を体験した人が多く通っています。4年制ですが、授業を多くとれば3年で卒業できます。

③ 通信制

自宅などで学習し、レポートなどを提出し、面接指導を受けます。年間に何日かスクーリングと言って学校に通うことが求められています。自力で卒業するのが難しいことが多いため「サポート校」と連携している学校もあります。

(3) どうやって卒業するのか。

① 学年制

学習する教科・科目が学年ごとに定められていて、修得すれば次の学年に進級する制度です。(遅刻や欠席が許されにくいかもしれません)

② 単位制

学年の区別はなく、必修科目と選択科目とを履修して必要な単位数(74単位)をとれば卒業できる制度です。(必修単位を落としたら、再度挑戦できます)

(4) どういう内容(学科)の学校か。

普通科、国際科、工業(→電子、機械、建築、システム工学など)、商業(→ビジネス、ビジネスコミュニケーションなど)、農業(→園芸、食品など)、ほかに美術や音楽などの芸術科や保育、介護、スポーツなど多様な学科があります。

3、どうやって決めたらいいの?~高校の情報を集める



高校は小中学校とは違って、学校によって学校生活も学習内容も人間関係も随分違います。自分に合った学校を探すために、学校の情報を手に入れましょう。いまは、都立高校も私立高校も不登校経験の生徒を受け入れているところが増えています。はじめから通信高校に限定する必要はないですよ。いろんな学校をのぞいてみましょう。

(1) 都立高校

「令和5年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」という冊子が公立中学に通う中学3年生全員に配布されています。入試についての詳しい情報は「令和5年度東京都立高等学校募集案内」が11月上旬に配布されます。東京都教育委員会のホームページに、都立高校検索サイトがあります。2023年入試からインターネット出願などの改変がありますから、よく調べましょう。詳細は11月に発表されます。

・入学試験（学力検査）を実施しない高校や独自の入試問題を実施する学校もあります。中学校が発行する調査書が必要ないところもあります。これらの学校はインターネット出願ではないので、各校から願書を取り寄せる必要があります。

(2) 私立高校

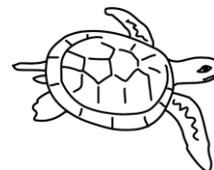
ネットで調べたりしながらそれぞれの学校の案内書を取り寄せます。私立高校にはその学校独自の教育理念があります。遅刻欠席が多いと受け入れないという所もあれば、過去は問わないという所もあります。それぞれの学校に直接問い合わせると教えてくれます。

* 広域通信制 + サポート校

本部が地方の小都市にある学校が多く、様々な学校があるので、直接見学して調べることが大事です。秋になると、「今なら手続きだけで入れる」と言われたりしますが、広域通信制高校はいつでも入れますからあせらずによく調べて決めることが大事です。通学型の通信制高校やフリースクールが広域通信制高校と連携しているところもあります。授業料が高くなる（高校+サポート校で2校分になる）こともあるので、よく調べることが大事です。

※離島留学

国土交通省ホームページ離島留学で検索すると調べることができます。
ここには、小中学生のための離島留学案内も掲載されています。



4、学校はたくさんあるけど、どうやって選ぶの?



★学校説明会やオープンキャンパス、文化祭などの学校行事に行ってみましょう。登下校中の生徒の様子や、通学経路なども。校内に入らなくても、学校を一周して見回すだけでも感じ取れるものがあるでしょうから、本人だけでは難しそうなら親子で行ってみるのがいいですね。

★自分なりの高校のイメージ、どういう高校生活を送りたいのかを考えてみてください。本人は実際に高校生活をしたことがないのでイメージしにくいでしょうから、学校案内などの資料を見ながら、イメージができるようご両親が手伝ってあげるといいでしょう。

★3~4校の候補校を決め、入試時期や入試方法を調べます。

★「ここに行きたい・ここなら通えそう」という学校を決めます。「何となくよさそう」くらいの選択でOKです。大事なのは本人が決めること。

5、「高校」に行きたくない、行かない、行けそうにない人にはどう道がありますか？



高校に行くか、行かないかでその後の人生が決まるわけではありません。いつでもどこからでもやり直せるのが人生です。「勉強」が遅れても心配は要りません。「高校」以外にも次のような選択肢があります。

(1) 都立特別支援学校の就業技術科・職業開発科

発達にでこぼこがあったり、コミュニケーションが苦手だったりする人の就業を支援する学校です。

(2) 中卒で入れる専修学校・各種学校もあります。

(3) どこにも進学しない。

- ・働いて少しでも稼ぐ。
- ・居場所や若者支援の組織、フリースペース、自立支援施設など。
- ・なんらかの社会的活動にかかわる。
- ・自分で勉強をすすめて高卒認定を受ける。1回で全科目合格しなくてもいいし、合格すれば大学や専門学校に進学することもできる。
- ・ゆっくり休む。



そもそも、どうしてみんな中学の次は「高校」に行くのが当たり前だと考えているのでしょうか？ 小中学校は「義務」教育。親は子どもを「就学」させる義務があるといわれています。高校からは「義務」はありません。でも、今の日本で中卒の人を雇ってくれる職場は少ないのが現実です。社会のなかで中卒の人の居場所はとても限られています。高校を卒業すれば、その先の進学や就職のときの選択肢が中卒よりもずっとずっと多いように思えます。だからみんな「せめて高卒だけは」と頑張っているのですね。だから親たちも、「高校に行くのは当たり前」で、「できるだけ『いい高校』に入れたい」と考えているわけです。親も教師も、世の中の多くの人たちがそのように考えるのが当たり前だと思っているので、子どもたちも「それが普通」だと考えるし、そのルールからはずれることに不安や恐怖を感じるのでしょう。

でも今、学校に行くことが難しく不安や心配で頭がいっぱいになっているのであれば、まずは親子ともどもゆっくりと心と体を休めることをおすすめします。

「就学の義務」は親と自治体、国の「義務」です。子どもには学校に行く「義務」はありません。もしも小中学校の先生が「これ以上休むと卒業できませんよ」と言ったとしても、**小中学校は全部休んでも卒業できます**から、安心してください。大切なのは、子どもには「学ぶ権利」があって、国や自治体と親はその権利を保障しなければならないということです。子どもが学校に行けなくなったとき、多くの子どもが「学校に行けない自分」を責めて傷ついています。子どもの「学び」を保障するためには、この傷を癒すこと、子どもが「学校に行けなくても自分は自分であっていい」と感じられるよう子どもの自己肯定感を損なわないように配慮することが大事です。**子どもが安心して自分らしくいられる場所と時間をたっぷりとつくること**が、子どもの「学び」の保障の第一歩になります。

子どもが自分の力で自分の人生を自分らしく歩めるように、**親は「待つ」ことに徹しましょう**。そうした暮らしのなかで、本人が勉学への意欲をもったり、居場所をはじめさまざまな支援組織や社会的活動につながっていったりするのをサポートできるといいですね。「高校」に行かなくとも、その人らしい生き方で輝いているかつて「不登校」だった先輩たちがたくさんいますよ！

6、参考までに ----- ----- -----

★都立高校は、入学後に「合わないな」と思ったら転学することもできます。学期ごとに「転学・編入学募集」を行っています。高校1年生の2学期募集であれば、異なる学科への転学、工業から普通科へなども出来るし、異なる課程、例えば定時制課程から全日制高校への転学も可能です。7月上旬に募集状況が発表され、8月上旬に入学願書が受け付けられて、検査（試験）を受けます。3学期以降は、原則同じ学科間・同じ課程間での転学になりますが、別の学校に移ることは可能です。

★不登校を体験した人に理解があって丁寧に関わっている私立高校もあります。気になる学校、行ってみたいもいいかなと思う学校があったら、まず説明会に足を運ぶところからはじめてみましょう。

★おおまかな高校入試の日程(令和5年度)

1 1月～1 2月 私立高校 学校説明会、個別相談会

* 中学での遅刻や欠席、発達のでこぼこについて直接相談でき、それぞれの学校の考えもわかります。

1 月 中下旬 千葉・埼玉 私立入試

2 月 1～7日 都立全日制・定時制 第一次・前期願書受付

1 0日頃 都内および神奈川 私立入試

2 1日 都立全日制・定時制 第一次・前期入試

3 月 6日 都立全日制・一部定時制 第二次・後期願書受付

9日 都立全日制・一部定時制 第二次・後期入試

2 2日 都立定時制 第二次願書受付

2 7日 都立定時制 第二次入試

4 月 月上旬 都立通信制入試（民間の広域通信制などはいつでも入学できます）



※定時制・通信制については10月頃に「令和5年度東京都立高等学校定時制課程・通信制課程入学案内」が出されます。

★試験のチャンスはたくさんあります。でも、試験の緊張と失敗による子どものダメージは深刻だということも頭においておきましょう。試験の準備をしたのに「受けない」という決断は勇気のいることですが、傷つけられてきた子どもの心を癒すことを大切に考えたいですね。